

1992年度
戦争体験を語り継ぐ集い
記 録 集

(1992. 8. 9)

緑社会教育センター

第4回(平成4年度)

「戦争体験を語り継ぐ集い」記録集

＝もくじ＝

第I部

1 はじめに(緑社会教育センター)	-----	2
2 開催までの経過	-----	3
3 当日の様子	-----	4～7
(1) 開会		
(2) 「15年戦争について」	小 出 裕 -----	4
(3) 報告-1 「戦争への道」	花 房 達 夫 -----	5
(4) 報告-2 「シベリア抑留体験記」	橋 詰 四 郎 -----	6
(5) 参加者からの発言	-----	7
4 感想文	-----	8～12
5 アンケートのまとめ	-----	13～14
5 むすび(反省と展望)	-----	15

第II部(資料編)

1 当日の案内表	
2 当日配布の資料	(「戦争への道」年表、「シベリア捕虜の頃」)
3 中日新聞の記事	

1 はじめに

緑社会教育センターでは、毎年8月の「終戦記念日」に合わせて、「戦争体験を語り継ぐ集い」を開催してきました。

最近では、「語り継がれる」対象が、小中高生などの子どもだけでなく、その親の世代にまで広がっているということで、裏返して言えば、「語る側」の年齢が高くなり、年々数が減ってきているということであり、「体験を語り続ける」ことの困難さを孕んだ大きな課題になっております。

過去3回の「集い」で、分かってきた緑区という地域は、「当時は名古屋市に隣接した田園地帯であり、狙われる程の軍事施設はなかったようです。例外的には日本車輛の工場がありましたが、そこでは連合軍の捕虜を働かせていたために爆撃を免れたという説もあり、特に激しい空襲を受けなくて済んだようです。」ということは、空襲による戦争被害者という側面だけを強調することもなく、『戦争』を多角的に取り上げて語り合える基盤があるということです。

被災体験は勿論、銃後の生活の苦勞、そして戦場体験、戦場へ送り出す教育をした立場、送り出された立場、同じ人が被害者としての立場と加害者としての立場を両方体験していたりで、より立体的に「戦争」を考え、トータルに「戦争」に迫る可能性がある反面、話が拡散しやすく、まとまりが難しいともいえます。そこで、テーマを絞った話し合いが効果的であると思われます。

今年は、住民の方が企画から運営までを担当する「実行委員会」方式で準備段階から進めましたが、その中で、「戦争体制が固められていくプロセスに焦点を合わせること」が話し合われました。

緑社会教育センター

2 開催までの経過

① 「戦争体験を語り継ぐ集い」第1回実行委員会

- ・ 日 時 / '92. 6. 26 18:30～
- ・ 場 所 / 緑社会教育センター「第1集会室」
- ・ 出席者 / 7名
- ・ 議 題 / 出席者の戦争についての思い、考えを出し合い、企画についての大筋についての話し合い。

今後のスケジュール（8月9日（日）に向けて）

② 第2回実行委員会

- ・ 日 時 / '92. 7. 13 10:00～
- ・ 場 所 / 緑社会教育センター「第1集会室」
- ・ 出席者 / 6名
- ・ 議 題 / 具体的な中身づくり。

焦点を、戦争にいたる過程、戦争体制はいかにつくられていったかとする。

③ 第3回実行委員会

- ・ 日 時 / '92. 7. 29 10:00～
- ・ 場 所 / 緑社会教育センター「第1和室」
- ・ 出席者 / 7名
- ・ 議 題 / 当日の進行、役割分担等。

④ 第4回実行委員会

- ・ 日 時 / '92. 8. 8 10:00～
- ・ 場 所 / 緑社会教育センター「第1和室」
- ・ 出席者 / 5名
- ・ 議 題 / 具体的な準備。

3 第4回 戦争体験を語り継ぐ集い

(1) 開会の挨拶 (司会、進行/ 大田 高輝 さん)

(2) 講師/ 小出 裕 先生・「15年戦争について」講演要旨

47年前の戦争について、アジアの人と共に語り合える土壌がない。「日本人は被害者としての戦争しか語らない」というアジアの人たちの言葉を考えてみる必要がある。太平洋戦争の末期だけをみれば被害者としての側面しか見えないかもしれないが、アジアの人から見れば空襲や原爆投下は、アジア侵略の結果として見えているということであり、47年前に敗戦で終わった“あの戦争”は1931年から始まった「15年戦争」という視点をもつことで、初めてアジアの人たちとの話し合う共通基盤をもつことが可能になる。

戦争被害というとき、戦争を15年間という長さで考えると同時に、地域的・空間的な広がりで考えることを提案したい。日本の広島・長崎を含む戦災被害や日本人戦没者だけに限らず、戦場となった(或は、日本が戦場にした)アジア全域に広げて考えることが必要である。日本人の犠牲者は300万人といわれているがアジア全体の戦争犠牲者2,000万人といわれる(=死者だけの数字、負傷者や強制連行に続く強制労働、従軍慰安婦、戦災孤児、被爆体験やその他肉体的、精神的犠牲は計り知れない)。中でも中国人の犠牲者は15年間で1,000万人に達するといわれている。

空襲、終戦までのプロセスをもっと考えてみる必要がある。特に、若い人たちはいろいろな局面で、「関係ない」といって済ましてしまおうとするが、国家権力の方は個人の生活や人生を有無を言わず、国家方針に沿って引っ張り込んで関係をつけてくる。平常時から意識的に考えておかなければ、何時の間にか戦争体制に組み込まれていたということが再び繰り返されるのではないだろうか。

(3) 報告-1. 「戦争への道」(要旨)/不戦兵士の会 花房 達夫 さん

実行委員会の話し合いの中で、戦争の非人間性をいうだけでなく、なぜ、私たちは「ひもじい」「怖い」思いをしなけりなかつたかを、歴史の中で学ぶ必要があるということになり、年表の作成を思い立ちました。

詳しくは「年表」をみてください。

知っておかなくてはいけない歴史上の事実で、学校教育では取り上げられないことがあまりにも多い。例えば、明治初年から敗戦までの78年間で、47年間は外国に出兵していた(台湾、朝鮮、シベリア等)こと等々。

戦争体制がつくられる中で、軍人には軍人勸諭をもって皇軍思想を叩き込みました。国軍は「天皇を守る軍隊であり、国民を守る軍隊ではない」です。

一般、特に子どもに対しては「教育勸諭」をもってし教育し、女性に対しては愛国婦人会・大日本国防婦人会という団体を通して、徹底した国防意識を徹底しました。また、町内会には内務省訓令で組織されたものであり、戦争体制への国民総動員の基盤として機能させられました。

「治安維持法」は拡大解釈、度重なる改定で「最悪の法」として国民の思想を締めつけ、「議会」も軍の圧力下に無力化させられていきました。

戦争への道は、用意周到に踏み固められて、気が付いたときは、国土荒廃と敗戦という事実があるだけでした。

先日の新聞の「ある外国人」の「テレビでPKOについて報道する時、必ず、戦車の映像を流しているが、あれではPKOのイメージが悪くなる。そんな番組のスポンサーの商品の不買運動を起こすくらいのことを自民党はやるべきだ」という記事がありました。「言論の抑圧」はそんなところからでも可能なのです。

わたしは、「信頼はいつも専制の親である。自由な政府は信頼ではなく猜疑に基づいて建設せらる」というアメリカ3代目大統領トマス・ジェファーソンの言葉をモットーにしています。

報告-2 「シベリア抑留体験記」(要旨)

／ ビースキャラバン 橋 詰 四 郎 さん

明治以降、日本の教育は「集団催眠教育」であった。「敗戦」で目が覚めたがまだ覚めていない人もいる。今も同じような時代になってきているのではないかなと思う。私たちは催眠術にかからないように気をつけなければならない。

第6国境守備隊に所属、満州、今の中国東北地方で、敗戦を知らずに8月22日まで戦争をしていた。8月15日を過ぎて、後方から将校と兵2人が戦争は終わったからと降伏を進めに来たが、将校を殺して戦争を継続した。それは、軍人勅諭で「天皇の兵」として教育され、「戦闘¹⁴⁾官・兵一般の心得」で「命令を徹底せざるか、または指揮官失いたるとも戦闘続行すべし」「兵は戦闘中、負傷するも、自ら応急の処置をほどこし、八方手段を尽く、戦闘を続行すべし。例え戦闘に耐えざるも後退すべからず」と叩き込まれていたのであるから、当然のことであった。

「おそれおおくも」と言えば、小学生でも直立不動の姿勢をとる、遅れたものは殴られた。軍隊で教えることは「人殺し」だけである。PKOで武器の携帯云々の話があったが、武器の向けられる先には、いつも人間がいることを忘れてはならない。

第二シベリア鉄道の敷設は捕虜を使って行われたが、困難を極めた。枕木一本捕虜一人といわれた。コンクリートよりも固い凍土を掘る作業の中で、次々に捕虜は死んでいった。真っ黒な死体から白いシラミが続々と出てくるのであった。仲間が死んでも誰も泣かない程、労働は厳しいものであった。シベリアでの捕虜は6万人が死んだとされている。

わたしは、「シベリア捕虜は、日本の国体護持の犠牲者であった」と理解している。無条件降伏でなく、国体の護持を条件にした降伏であることは、天皇の終戦の詔で明確である。シベリア捕虜は天皇制のために棄民として扱われた。

(5) 参加者からの発言

- ・弾圧された人をかくまった経験があるが、当時は正しいことをいう人がみんなやられた。
- ・大企業に勤めていたので、政党支持の自由はなかった。退職して初めて自由に発言できるように感じている。
- ・戦時中の情報制限で、知っていても知らせる手段もなかった。日本の将来を考えるためには情報の公開が是非必要。
- ・軍隊では何もなかった、訓練もM-1タンクの下へ潜り込む訓練ばかりであった。
- ・歴史の勉強では、事項と年代を憶えただけ、お祖父さんお祖母さんからもっと話を聞いておくべきだった。
- ・私たちは直接話を聞く機会が少ない、今まで「戦争」に対して違うイメージをもっていた。もっと話を広げたい。
- ・戦争の話聞いたのは、空襲の話ししかなかった。知らない事ばかりだということを感じた。
- ・学校では表面的なことしか学べない。当時生きていた人たちの息づかいまで聞こえるようで感動した。
- ・ASEANやその他いろいろな国の人の話を聞いてみたい。
- ・銃後の守りにも焦点を合わせた話し合いを期待します。

(6) ま と め (小 出 裕 講師)

平和にとって厳しい時代がきている。

特に若い人たちは、自分には「関係ない」といつてすましてはいけない。

二度と戦争を起こさないように歴史に学んでいかなければと思う。

4 参加者の感想文

PKOのことで腹だたい思いをもち、息子たちが徴兵制のもと、「昔、来た道を歩く」ことに大きな不安をもちつつこの「集い」に参加しました。

小さいころ、母が畑にいて、私もいたのですが、その時、飛行機が飛んできました、私はボタンと倒されました。母は「ごめん、戦争の時のこと、思い出しちゃった」と苦笑いしながらも、悲しい顔をしたのを憶えています。

花房さんの年表の話には、本当に、今私たちが国家権力に巻き込まれていないための何かをしないといけないと思わせるものでしたし、橋詰さんの体験そのものの言葉に目頭を熱くしました。本当にあった、いかにも怖い話ですね。

二度とこんなことが、非人間的なことが、繰り返されないために、

「私たちは行動しなければ」と改めて思います。

「人間は、どうあっても大切な “人” ・そのもの」です。

「正しい戦争はありません！」

伊藤洋子さん

これだけ悲惨な戦争を、僕たちは知らなさ過ぎると思いました。

教科書にのっていないことが多すぎるので、本当に教科書は正しいことを書いてあるのか不安です。

中3 伊藤友志君

「戦争体験を語り継ぐ集い」とは、どういったことが行われているのか、知りたくて参加しました。

- ・15年戦争の概略 講師/小出裕先生
- ・戦争年表の説明 花房達夫さん
- ・シベリア抑留体験記 橋詰四郎さん

感想として

私は戦争年表が一番理解できた。他は時間の都合で要点がはっきりしないところがあった。

- ・安川寿之輔教授の調査結果をみて

- ① 若い世代の貧弱な歴史認識
- ② 日本人の戦争認識が被害者意識に偏り

(15年戦争の直接・間接の体験者)

- ・家庭で語られた話題

「被害的」 食料難、空襲、原爆、近親者の死、中国残留孤児

「加害的」 朝鮮人慰安婦、南京大虐殺、生体実験

- ・まとめ

- ① 悲惨な戦争体験が語り継がれて次世代に共有されていない
- ② 近現代史軽視の誤った歴史教育(改善の急務)

私の感想として満州事変、日中戦争と続いた中国への侵略戦争や35年間の朝鮮植民地支配について歴史の重さを感じ取りました。

今村宏雄さん

今の社会と戦中の社会を比べてみると、非常に似ているのではないかと恐ろしく思いました。海外派兵としてのPKO、言論の自由の侵害としての厚生大臣の発言、教科書にPKO、自衛隊を盛り込み美化しようとする自民党政府、少しずつ戦争の道に向かって歩み出しているように思う。

PKOで思ったけれど、今の世の中、情報がたくさんあるように思えるけど、真実を報道しているTV局は一つもなかったと私は感じる。牛歩のことを批判する人もいるけれど、あれは少数政党の権利です。私たちの平和、権利、生活を奪い苦しめているのは誰か、守ろうとしているのは誰か、本当にしっかりした目をもたなければ、騙されてしまいます。

資料の中にあった1940年、大政翼賛会発会式、全政党解散となっているがこれは誤りです。日本共産党を除く政党が解散して大政翼賛会に参入したということとはしっかりおさえておきたい。

PKOは阻止できる！ 阻止しなければいけない！ 過ちは繰り返してはいけません。平和な社会でなければ、老人、障害者、子ども、女性は生活していくことはできないということは、歴史が教えています。戦争が起これば、「誰が苦しむのか、そして誰が喜ぶのか」もう一度見つめ直す必要があると思う。

貴重なお話しありがとうございました。

大野健志さん

今日は家の都合で、11時頃から社教センターのこの催しに行くことができて戦地での本当のお話を聞き、午後はテレビでその当時の一般の生活に。

丁度、私共も十九年一月三日には、栄養失調で長男を亡くし、その後戦争が終

わって、次男、三男はお陰で育ちました。

しかし、生活は子ども達が学校を出る迄は大変でした。今日は子ども達が里へ行って留守ですので、暑い夏の時も社教センターでは涼しく、お話を聞き、おかゆ、スイートンをおいしく頂き、又かき氷までおよばれて、極楽でした。

有難う御座居ました。

下郷幸子さん

初めて参加した者として、気のついたことの一端を述べておきます。来年の参考になれば幸いです。

1. 小出先生の司会は大変巧く今後とも続けて頂けたらと思います。それにまどめは大変有益でした。
2. 私の年表については作成に一月しかなく、自分ながら良いできではなかったと反省しています。私が説明しなくともその事項の概略が分かるようにすべきでした。そのためには教科書のコピーは止めてその分各事項の説明に力を入れるべきだったと思っています。来年も会が存続すると思いますが、その有無にかかわらず私自身の勉強の励みとして一年がかりで作ってみるつもりです。勿論、企画がかわって年表の必要がなくなっても私自身の為ですから構いません。
3. 参加者の発言の機会を多くした方がよいと思います。その場合、私は一参加者として必要に応じ年表の事項を説明したり、質問に答えたりして盛り上げるようにした方が良かったと思います。説明の機会がなかったり、質問がなかった場合の為に2.に書いたような年表が必要と思いました。

4. 婦人層の参加が以外に少ないと思いました。天候の関係もあったと思います
休み前に緑高校・鳴海高校に依頼することはできないでしょうか。まさかこの
ような有意義な行事への参加依頼を断ることはないと思います。若い人の参加
こそ有意義と思います。

いろいろ事情もあるかと思いますが「広報なごや」の記載が早過ぎたように
思いました。8月号に載っていなかったので7月号を取り出して分かった次第
です。ひと月以上も前ですと余程関心のある人以外の方は忘れてしまいます。

5. 雑炊、おかゆは続けれるものなら続けた方が良いと思います。ご婦人の方の
賛同が得られればの事です。氷は天候に左右されますが、無いより有るほう
がよいでしょう。

6. 展示については、今年初めての試みでしたが、よく集まったと思います。死
蔵している方もおられるので相当な期間のPRが必要かと思います。

7. 外国人の招待について

新しい試みとして韓国人、中国人、フィリッピン人で不法就労でない方2～3
人を招待したと思います。親または信頼できる人から日本軍の事について聞き
知った事を述べてもらったらと思います。

また、現在日本に対しどのような考えか、どのような希望が有るか述べてもら
うのもいいかと思います。

戦争体験と小さな国際親善となり、新しい試みともなります。

以上気のついたことを述べてみました、今後の参考の一端ともなれば幸甚でござ
います。

8月17日

花房達夫さん

5 「参加者対象のアンケート調査」 まとめ

(1) アンケート回収数 男= 6人 女=14人 計=20人

(2) 年齢別

	姓	姓	姓	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合 計
男	1	1	1			2		1		6
女			2	1		2	4	3	2	14
計	1	1	3	1	0	4	4	4	2	20

(3) 職業別

	姓	姓	姓	勤人	主婦	自営	自由	無職	その他	合 計
男	1	1	1	1			1	1		6
女			2	3	8			1		14
計	1	1	3	4	8	0	1	2	0	20

(4) 居住地別

	名古屋市		名古屋市以外	合 計
	緑区	区外		
男	5		1 (知多郡1)	6
女	10		4 (知多郡、豊明市、瀬戸市、東京都各1)	14
計	15	0	5	20

(5) 参加の動機

	広報なごや	ち ら し	友人・知人	そ の 他	合 計
男	1	3	2		6
女	3	1	8	2	14
計	4	4	10	2	20

(6) 全体的な感想

	参加してよかった	まあまあだった	つまらなかった	合 計
男	5	1		6
女	13	1		14
計	18	2	0	20

(7) 一番よかった企画

	座 談 会	いもがゆ・すいとん	ビデオ	豚コーナ	か き 氷	合 計
男	2	1	2	2		7
女	8	7	1		3	19
計	10	8	3	2	3	26

(複数回答あり)

(8) ご意見、ご感想

- ▽ 記録集の作成をお願いします
- ▽ 座談会を広報なごやに出して、みんなに知らせてほしい
- ▽ 年に2回くらい開催してはどうか
- ▽ 若い人たちに多く参加して貰い、平和の素晴らしさを判ってもらいたい
- ▽ 皆様のお話のひとつひとつが身に沁みる会でした
- ▽ いわゆるそのへんのオジサン、オバサンがいっぱい話せるといいと思います
- ▽ 毎年続けていっていただきたいと思います
- ▽ もっと大勢の人が集まるといいですね
- ▽ 子どもたちの参加が多くなるといいです
- ▽ 途中で抜けてしまいましたが、お話しがたくさん聞けて本当に良かったです
- ▽ 8月6日の開催が良いと思います

- ▽ 初めてのことでこれから色々勉強しながら参加していきたい
- ▽ 今回は時間が少なかったなので、次回はゆっくり参加したい
- ▽ 企画の段階でもっと多くの関心をもつグループに声を掛けて実行委員会を組織すると思います
- ▽ 二度と戦争のないように正しく体験を伝えていくべきです
- ▽ 現在の老人がもっと自分の今迄の生きてきたことを若いものに伝えていきたいと思います
- ▽ 知らないことばかりで驚きが大きかったです

当日の案内ちらし

せん そう たい けん かた つど
戦争体験を語り継ぐ集い

8月9日(日)

朝 10時 ~ 昼 3時
「緑社会教育センター」 集合!

- アニメ 「はだしのゲン」 (ビデオ) をみる
- 昔の 教科書 や 戦争に関する資料 などの 展示 をみる
- 昔、日本が戦った「戦争」についてのお話し を聞く

「お昼には、戦争時代の食事が食べれるよ！」
(いもがゆ、すいとん)

「か き 氷」もあるよ !

主催 / 「第4回戦争体験を語り継ぐ集い」実行委員会

緑社会教育センター (☎ 6 2 1 - 9 1 2 1)

6 む す び

今回は企画段階からの住民参加を目指して実行委員会方式を試みた最初の会になりました。

準備のための会議は4回、当日の役割等にも住民の方の積極的な参加をあり、この貴重な経験を今後も積み上げていきたいと思います。さらに、来年以降はもっと多くの若者たちの参加を期待しています。

「不戦兵士の会」「ピースキャラバン」「熱田空襲を記録する会」「半田空襲と戦争を記録する会」「戦争遺跡研究会」「あいち・平和のための戦争展実行委員会」その他平和を考えるグループや運動の方々の多大なるご協力をいただいたことに感謝すると共に、このネットワークが生まれたことを大きな収穫として喜んでいます。

また、宣伝について考えさせられることも多くありました。例えば、新聞社の当日取材については、実行委員会の一人が出した1枚の案内はがきの効果であった。手作りで進めることは大切なことだが、宣伝についてはマスコミ等の手を借りることも戦略の一つであろう。実行委員会の熱意のわりには当日の参加者拡大が思うようにいかなかっただけになおさら痛感されました。

今後は、単発事業として終わるのでなく、他の事業と組み合わせて、内容の充実と参加者の拡大を図っていきたいと思います。

各方面の運動や団体、事業との連携を強めることによって、さらに意義ある事業展開が期待できるのではないかと考えています。

国民的な記憶だった“あの戦争”が、歴史の闇に吸い込まれて、私たちの耳にまた“あの軍靴の響き”が聞こえてくるようなことになれば大変です。戦争体験が風化していく中で、平和の問題を積極的に取り上げて、自由に議論できる場を設定することが、社会教育施設の使命であるということを確認して締めめくくっておきたいと思います。

第Ⅱ部

< 資料編 >

第4回「戦争体験を語り継ぐ集い」

92. 8. 9 (日)

会場 時間	<第2集会室>	<第3集会室>	<ロビー>	<料理室>
9:30		展示コーナー	受付、案内	
10:00	座談会	(各種展示) (終戦の玉音放送)		準備
	①開会、講師紹介 ②「15年戦争の概略」 講師/小出 裕 先生 ③戦争年表の説明 不戦兵士の会 花房達夫さん ④シベリア抑留体験談 橋詰四郎さん ⑤参加者からの発言 ⑥質疑・応答 ⑦まとめ/小出 先生 ⑧歌唱指導「さとうきび畑」 ⑨閉会			
12:00			戦時食 試食・体験	
13:00			いもがゆ、すいとん	
13:30	ビデオ上映 アニメ「はだしのゲン」	展示品の説明 交 流	かき氷コーナー	
15:00	終了	終了	終了	

戦争への道

明治初年—昭和20年

1 日本軍隊の外征

明 7 (1874)	台湾征討	征韓派をなだめる為。台湾で琉球漁民が殺害されたことを口実
8 (1875)	江華島事件	朝鮮に開国を迫るため、日本軍艦が江華島近海を示威し、交戦
27 (1894)	日清戦争	外征軍174,017名、戦死1,161名、戦病死7,234名(陸軍)
28 (1895)	台湾出兵	台湾島民の反日闘争。2ヶ師団投入。21年間続く
33 (1900)	義和団事変	清国の排外的団体。北京公使館区を焼き打ち。8ヶ国出動。その最大兵力47,000名、うち日本中心となり22,000名派遣
37 (1904)	日露戦争	外征軍945,394名。戦死81,455名、
40 (1907)	朝鮮併合戦争	朝鮮における反日闘争。戦闘回数2,852回
大 3 (1914)	第1次世界大戦	青島、南洋諸島を占領。戦死394名
7 (1918)	シベリア出兵	ロシア革命阻止。出兵国—日、米、英。日本最多出兵国で75,000名。4年駐留。2ヶ大隊全滅し、日本初の敗北
昭 2 (1927)	第1次山東出兵	在留邦人の生命・財産を守るための名目。目的は中国の統一を妨害するため。派兵約4,200名
3 (1928)	第2次山東出兵	上記と同じ理由。派兵約5,000名
3 (1928)	第3次山東出兵	邦人殺害を理由。派兵約15,000名
6 (1931)	満州事変	9月18日に勃発。15年戦争の始まり
7 (1932)	上海事変	満州独立を列国の目からそらせるため。1ヶ師団、1ヶ旅団、と海軍を派遣。苦戦を糊塗する為、「爆弾三勇士」を創作
12 (1937)	日中戦争	7月7日蘆溝橋で日中両軍衝突
13 (1938)	張鼓峰事変	国境線をめぐり日ソの衝突。戦闘参加人員約7,000名
14 (1939)	ノモンハン事変	上記と同じ理由。戦闘参加人員約33,000名
15 (1940)	北部仏印進駐	日本軍の死傷率約48% 日本軍の大敗北
16 (1941)	南部仏印進駐	武力進駐し国境でフランス軍と交戦。現地軍の命令無視
16 (1941)	太平洋戦争	南方作戦のための基地獲得を目的。米、英、蘭の三国は日本に対して在外資産を凍結。アメリカ石油を禁輸
		12月8日、日本軍真珠湾攻撃

2 軍の陰謀・クーデター

(未遂を含む。上記1と重複するものあり)

明11 (1878)	竹橋事件	西南戦争の論功行賞、待遇改悪に不満の近衛砲兵大隊兵士260余名。反乱兵士53名銃殺、残余の者も有罪
昭 3 (1928)	張作霖爆殺	陸軍の陰謀
6 (1931)	三月事件	陸軍中堅将校のクーデター未遂事件
6 (1931)	十月事件	上記と同じ

昭 6(1931)	満州事変	陸軍の陰謀
7(1932)	上海事変	陸軍の陰謀
7(1932)	五・一五事件	海軍青年将校による国家改造の為のクーデター。死刑なし
11(1936)	二・二六事件	陸軍青年将校に引率された1483名の兵士のクーデター。死 軍人13名、民間人4名

3 軍、右翼、警察などによる殺害 または未遂事件

明28(1895)	閔妃殺害事件	親露派の閔妃(ミデ) - 韓国皇帝の妃 - を殺害。犯人は日本指揮による日本守備隊、日本人官吏、巡査、民間人(20数)
大12(1895)	甘粕事件	社会主義者大杉栄夫妻と甥の3名を関東大震災の時、甘粕大尉と部下が殺害。懲役10年。3年で釈放後満映理事長と
昭 4(1929)	山本宣治殺害	労農党代議士、国会開設中に右翼により暗殺される
5(1930)	濱口雄幸殺害未遂	首相。右翼による
7(1932)	井上準之助殺害	前蔵相。右翼による
7(1932)	団琢磨殺害	三井理事長。右翼による
7(1932)	犬養 毅殺害	首相。五・一五事件による
8(1933)	小林多喜二死亡	作家。警察による拷問死
11(1936)	相沢事件	相沢陸軍中佐、陸軍省で軍務局長永田陸軍少将を斬殺。陸派閥抗争
12(1937)	美濃部達吉暗殺未遂	天皇機関説に反対する右翼による
12(1937)	渡辺錠太郎殺害	陸軍大将、教育総監。二・二六事件による
	高橋是清殺害	蔵相。二・二六事件による
	斎藤 実殺害	海軍大将、内大臣。二・二六事件による
	鈴木貫太郎重傷	海軍大将、侍従長。二・二六事件による

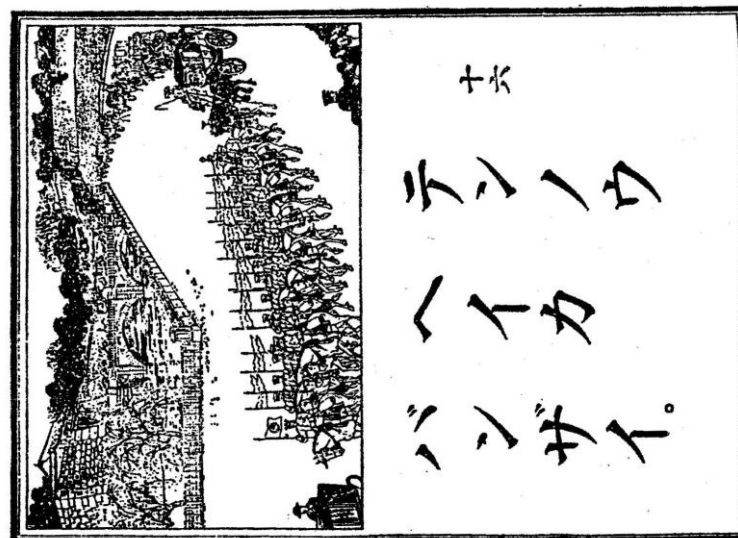
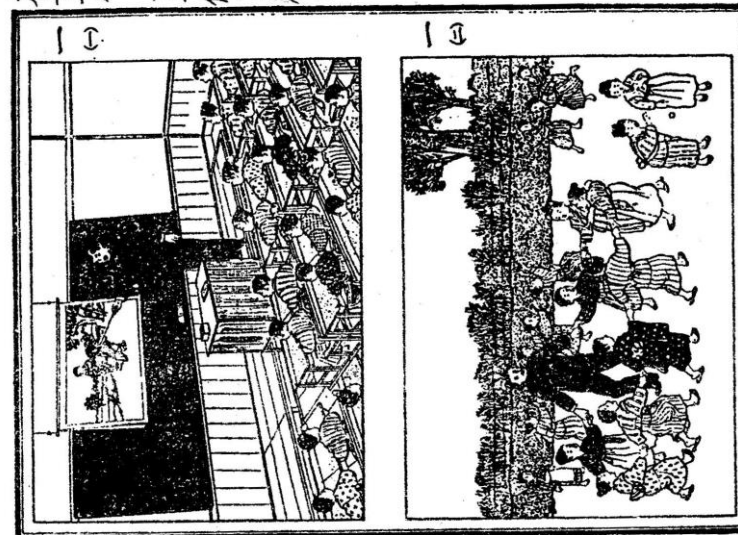
4 上記以外の事項

明 5(1872)	学制制定	学校設立計画を発表。机上のプランに終わる
5(1872)	教科書自由発行 自由選択制	
6(1873)	徴兵令制定	免役事項多く、効果乏しい。男子20才、抽選で3年間服
15(1882)	軍人勅諭発布	天皇の軍隊である旨を宣言
16(1883)	教科書の認可制	採択の可否につき、監督官庁の許可必要
19(1886)	小学校令公布	尋常科4年義務、高等科4年。教科書検定制実施
19(1886)	教科書の検定制	政府の立場からみて国安妨害のおそれある教科書かどうか
22(1889)	徴兵令改正	免役事項廃止。中学校卒は1年志願兵制度、師範学校卒は 間現役制を採用
22(1889)	旧憲法発布	天皇の恩恵として国民に与えられたもの
23(1890)	教育勅語発布	天皇の絶対性、神聖性が付与されたもの

明23(1890)	第一回総選挙	直接国税15円以上、所得税は3年以上。有権者 1.14%
24(1891)	小学校祝日大祭日 儀式規定制定	御真影、教育勅語、校長訓示、祝祭日唱歌合唱、和菓子頂く 2年後、祝祭日唱歌八曲を指定(君が代含む)
33(1900)	愛国婦人会発足	初めは軍事援護団体として、後次第に軍の指導下により 軍国主義推進団体となる
33(1900)	小学校令改正	尋常科4年の義務化を強化。1908(明41)より義務教育6年
36(1903)	国定教科書制定	子どもたちに教育勅語の精神をしつかり教えこむため
43(1910)	帝国在郷軍人会	軍人精神を国民的規模に広げる為の媒介者としての任務
43(1910)	朝鮮併合	
大 4(1915)	対中国二十一ヶ条 の要求	旧ドイツ領の権利を承継し、南満州等の事実上日本の領土化を 認めさせる
7(1918)	米騒動	米の値上がりの為、富山の主婦たち立ち上がり、忽ち全国へ 波及。107市町村に軍隊派遣。5,112名有罪となる
8(1919)	三・一独立運動	朝鮮で全国独立デモ起こる。総参加者136万人、死者6,670名 負傷14,600名、投獄52,730名
12(1923)	関東大震災	朝鮮人が暴動を起こしたとの流言により自警団が組織され、 6,000人以上の朝鮮人が理由もなく殺害された
13(1924)	護憲三派内閣	加藤高明から犬養毅まで政党内閣続く
14(1925)	陸軍現役将校 配属令	中学校以上で軍事教練始まる。軍縮により過剰になつた 現役軍人を配置。大学は1939(昭14)より教練必修
14(1925)	治安維持法公布	社会主義弾圧が目的。次第に拡大悪用される
14(1925)	衆議院選挙法改正	男子25才以上
昭 2(1927)	兵役法改正	52議会で男女差別・不平等ではないかとの質問あり
3(1928)	治安維持法改正	処罰範囲を拡大、刑罰を重くする
5(1930)	ロンドン条約調印	統帥権干犯問題起る
7(1930)	大日本国防婦人会	大阪で組織され、軍が肩入れをして全国に広がる
10(1935)	青年学校令	青年訓練所、実業補習学校を統合。普通科2年その上に本科を おき男子5年、授業のうち40%は軍事教練、女子3年
10(1935)	天皇機関説	美濃部達吉博士の学説を攻撃。そのため貴族院議員を辞職
11(1936)	軍部大臣現役制	軍部大臣は現役に限る。後に弊害をもたらす
12(1937)	宇垣内閣流産	陸軍は大臣を出さず、そのため組閣できず
12(1937)	南京大虐殺	南京軍事裁判では犠牲者約30万人といわれる
13(1938)	黙れ事件	軍務課員佐藤陸軍中佐、衆議院委員会で法案説明中、野次に怒 り「黙れ」と一喝。処罰なし
13(1938)	国家総動員法	あらゆる物資、国民徴用、労働条件の規制など
14(1939)	青年学校義務制	男子12才~19才
14(1939)	興亜奉公日制定	毎月一日に実施。後に八日を大詔奉戴日とする
14(1939)	国民徴用令公布	登録された労働者を軍需工場へ徴用。後、中小商工業者が対象

昭14(1939)	第二次世界大戰	英・仏、ドイツに宣戦布告
15(1940)	斎藤隆夫除名	衆議院議員。国会での演説内容が軍の怒りを買って除名
15(1940)	日独伊三国同盟	日米交渉の大きな妨げとなる
15(1940)	部落会・町内会等 整備要綱	内務省の訓令。町内会の下に10戸内外で隣組、上意下達のため 常会開設を義務化する。連帯責任と相互の監視
15(1940)	大政翼賛会発会式	全政党解散
16(1941)	国民学校令公布	教科を国民科・理科・算数科・理科・音楽科・体育科へ統合。一段と 皇国精神・忠君愛国の教材も増加
16(1941)	日ソ中立条約調印	
16(1941)	治安維持法改正	処罰対象拡大。死刑の他、予防拘禁を新設
17(1942)	シンガポール占領	敵性華僑を処刑。その数、約4万名ともいわれる
17(1942)	初の本土空襲	4月18日、16機本土侵入。東京、川崎、横須賀、名古屋 四日市、神戸。死傷者565名、家屋損壊330
18(1943)	学徒出陣	理工系を除き、徴兵猶予停止
18(1943)	徴兵適令臨時特例	徴兵年齢19才。19年4月より実施
19(1944)	海軍乙事件	連合艦隊参謀長福留中将の搭乗機台風のため不時着しゲリラ 捕虜となる。後釈放。機密書類等盗まる。処罰無く栄転
19(1944)	サイパン陥落	非戦闘員の犠牲約8,000 - 10,000名と推定
19(1944)	学童集団疎開	東京他12都市に広げる。国民学校初等科3年以上で、縁故 疎開のない学童は農村へ強制疎開
20(1945)	ルソン進攻	7月4日 第四航空軍司令官富永中将、台北へ敵前逃亡。彼の命 による特攻機342機。処罰は予備役編入のみ
20(1945)	沖縄戦	非戦闘員の犠牲は約94,000名。日本軍による殺害は約 800名以上。その他直接間接自決を強要された者多数
20(1945)	決戦教育措置要綱	臨時閣議で決定。国民学校初等科を除き、授業は20.4.1 - 21.3.31 まで原則停止。直接決戦に必要な業務に総動員する
20(1945)	日ソ中立条約不延長通告	
20(1945)	ドイツ降伏	5月8日ドイツ無条件降伏
20(1945)	義勇兵役法	男15才~60才、女17才~40才。国民義勇戦闘隊として軍の統 下におく。それ以外の者は戦場に止まり適宜避難
20(1945)	ポツダム宣言通告	7月26日
20(1945)	広島原爆投下	8月6日。犠牲者176,964名(1992.8.6 発表)
20(1945)	ソ連対日参戦	8月8日。在留邦人引き揚げ迄に約176,000名犠牲
20(1945)	長崎原爆投下	8月9日。犠牲者約122,000名
20(1945)	日本降伏	8月15日。ポツダム宣言受諾
20(1945)	大阪原爆投下予定	8月18日頃
20(1945)	オリンピック作戦	11月1日頃、南九州へ上陸予定
21(1946)	コロネット作戦	4月1日頃、相模湾・九十九里浜へ上陸予定

大正年代 一年修身教科書



靖国神社に合祀され、神となった国民の数の内訳は、次のとおりである。

明治維新前後の内乱	七七五一名
西南戦争ほか	六九七一名
日清戦争	一万三六一九名
台湾出兵ほか	一一三〇名
北清事変(義和団事変)	一二五六名
日露戦争・韓国鎮圧	八万八四二九名
第一次世界大戦・シベリア出兵など	四八五〇名
支那事変(山東出兵)など	一八五名
満州事変など	一万七二六二名
日中戦争	一八万八一九六名

太平洋戦争 二二二万三六五一名
合 計 二四五万三一九九名

(最近の靖国神社側の資料では合計二四六万条名となっている)

大江志乃夫「靖国神社」岩波新書



参考文献

大江志乃夫「昭和の歴史 3」	天皇の軍隊	小学館
藤原 彰「昭和の歴史 5」	日中全面戦争	小学館
木坂順一郎「昭和の歴史 7」	太平洋戦争	小学館
沢地 久枝「火は我が胸中にあり」	角川文庫	
高橋 正衛「昭和の軍閥」	中公新書	
佐藤 功「日本国憲法概説」		学陽書房
大江志乃夫「日露戦争と日本軍隊」		立風書房
同 上 「徴兵制」	岩波新書	
同 上 「靖国神社」	同上	
草柳 大蔵「斎藤隆夫かく戦えり」	文春文庫	
吉村 昭「関東大震災」	文春文庫	
同 上 「海軍乙事件」	文春文庫	
井上 清「日本の歴史・下」	岩波新書	
角田 房子「閔妃暗殺」		新潮社
福島 新吾「岩波講座・日本歴史17・近代4」		岩波書店
藤原 彰「日本軍事史・上」		日本評論社
石川松太郎「日本教育史」		
潮見 俊隆「治安維持法」	岩波新書	
長浜 功「昭和 교육史の空白」	日本図書センター	
中塚 明「岩波講座・日本歴史17・近代4」		岩波書店
林 茂「同 上」		
藤井 松一「岩波講座・日本歴史18・現代1」		岩波書店
松尾 尊允「岩波講座・日本歴史19・現代2」		岩波書店
江口 圭一・小野信爾		岩波書店
「岩波講座・日本歴史20・現代3」		
今井清一・野沢 豊		岩波書店
「岩波講座・日本歴史20・現代3」		
宇佐美誠次郎「同 上」		岩波書店
防衛庁防衛研修所戦史室編		朝雲新聞
戦史叢書「本土決戦準備・2」九州防衛		
山住 正己「教科書」	岩波新書	
山住 正己「日本教育小史」	岩波新書	
江口 圭一・木坂順一郎	岩波ブックレット・64	
「治安維持法と戦争の時代」	岩波書店	

シベリア捕虜の頃

(1991年3月10日)

★始めに言いたいこと。

シベリア抑留者苦難は昭和20年8月15日平和の日から始り、飢餓・酷暑・重労働に64万人が強制連行され6万人が死亡。今歴史を掘り起すと敗戦1ヵ月前。イタリア・ドイツの戦争責任者に対し、連合国の処置に驚いた政府、近衛文相は皇室の安泰、天皇制の護持を条件に関東軍将兵の労働力提供を不可侵条約下の、スターリンに匂わせたのである。終戦の詔書には、『朕ハ茲ニ国体ヲ護持シ得テ』と明記されている。シベリア抑留者が我々は国から棄民されたと怒る根源がここにある。ナチスは強制収容所の入口に『働けば自由になれる』と掲げ、民間人だけで1921万1812人殺戮したが、ソ連は戦争終結後『働けば賠償金が安くなる』と強制労働させたのである。

★ソ連はシベリア連行後、病弱者は必要無しと日本へ送らず、満州へ逆送した中に「菅井」がいて、黒河事件(昭21.6.21日深夜1時約550名が監視兵数名を殺し脱出、半数は捕まり殺される)は、(昭63年『今日は12月8日』)に書いた。又22日まで戦車群団と死闘したことも『今日は……』に書いたので「捕虜の頃」だけにする。

★抑留された場所。クラスノヤルスク第7捕虜収容所(シベリア鉄道とエニセイ河の交差する工業都市)

★気温。氷点下45度まで体験。空中の水分も凍り輝き浮遊する。物凄く美しいが覚める気持ちにはならない。トイレは排泄した湯気が霜になり天井に付着、逆さ樹氷の形になり、豪華なシャンデリアを想像させる。

★日の出と日没。

夏。3時頃明るくなり、太陽は北から出て東→南→西と天空を大きく回り北に入る。23時頃はまだ明るい。

冬。10時頃明るくなり、太陽は南から少し顔を出し地平線をかすめて南に入る、3時頃暗くなる。

★捕虜の死ぬ順番。

体力のない者・補充兵(現役除隊後再度召集者)からで、虱による発疹チブス・飢餓による栄養失調・強制労働による過労等々だが、最大の原因は飢餓と酷暑の中強制労働により、長い冬季に死亡者が続出した。壁にもたれている者に食事を教えたと死んでいるなど、自殺者の遺書には、「捕虜は軍人の脱殻にして、腰に飯盒をぶら下げ、木の芽草の根を探し、残飯捨場に集まるを常とす。」と、あった。

3年前アウシュヴィッツ展があり館長も来たとき。アウシュヴィッツにいてどうして助かったか聞く者がいた、氏は苦しうに3点を挙げた。①若かったこと②ドイツ語が話せたこと③タイプライターができたこと。即ちナチスの便利屋であったからだ、私は氏の正直さに感動し、贖罪に生きていると思ひ涙が出た。

★食糧。

満州から持ち込んだ粟・高粱の塩無粥が少量で続く。使った鉛筆や越中ふんどしも塩(岩塩)や馬鈴薯と交換する。何ヵ月振りに塩を口にしたとき、これこそ最高の味だと感嘆した。生野菜・動物性蛋白質もなくデキモノが出来、尻の肉の付具合で

健康度が決る、私は旋盤技術で工場へ。翌春農業経験者調査で生れながらの農民と嘘を言って、農場で馬鈴薯植え。生野菜のお陰か捕虜のデキモノも治り、少し体力も付く。いろいろあったが紙面があれば後で書こう。

★蒸気機関車修理工場。

蒸気機関車のボイラーの鉄を旋盤で削る作業、職場は旋盤4台・ボール盤2台・人員ガマンジュール1名(監督)ロシア人7名、捕虜5名。職場のリトアニア人は(91.2.23日「新作千夜一夜物語り」)に書いた。

500人以上の捕虜がロシア人と対等に働いた。工作機械は日本製が多く新潟鉄工所の機械が特多。仕事を怠けては広い工場を探検し、日本語の付いた機械を探したとにかく「日本」が恋しかった。屋根付き暖房職場で生きて帰れた。

鉄削りの労働体系。年間を通してサマータイムであった。

①昼勤 9時～17時 7名(監督1・労働者6)

②準夜勤 17時～夜1時 5名(旋盤3・ボール盤2)

③深夜勤 夜1時～朝9時 1名(旋盤1)私は1台の旋盤を3人で持ち、他の2人はロシア女でオーリャ(主婦)マローシェ(娘)で、①②③を3人で循環し②③の仕事は昼間監督が準備した。収容所～工場間の送迎はソ連兵監視だが途中から、深夜勤は兵から娘になりアベック通勤、監視なしだから夏はよく遅刻した。

★捕虜ロシア人労働者と共謀し監督を首にする。

監督はラッシンコと呼ぶ男でハンサムだが、ダバイ(急げ)が多かった。②の勤務で行くと暖房用のスチーム管に並んで腰掛けニラボータ(仕事をしない)ラッシンコ歩き回り喚いている、労働者が反論すると他の仲間がダーダー(そうだの意)捕虜も一緒にダーダー。ラッシンコ首になり女の監督になる彼女は良くしてくれた。

★ノルマ。(一日にやりとげる仕事の量)

ノルマは仕事の質と量で決められている基準量。今は日本でも使用しているロシア語、基準を100とし超えると表彰、不足には罰がある。決め方は不公平よりデタラメと言った方がよい。道具が足りないのに一人分のノルマは変わらないのである。

★給料(働けば賠償金が安くなる仕組み)……無収入の収容所もあった。

職場のロシア人は一ヵ月800～900ルーブル、私は1200ルーブル稼いだ月もあったノルマ180%、ハラショラボーター(模範労働者)だ。模範労働者から転落するが後で述べよう。

(一ヵ月401ルーブル稼いだ時)……400ルーブル以下は貰えない。

天引き400ルーブル、捕虜の衣食住費・病人治療費・未就労者の衣食住費であるのこり1ルーブル 手取り金額。

(一ヵ月550ルーブル稼いだ時)

天引き400ルーブル。

のこり150ルーブル 手取り最高額。これ以上は貰えない。

(一ヵ月1200ルーブル稼いだ時)

天引き400ルーブル。

手取り150ルーブル。

のこり650ルーブル 日本の賠償金に積み立てられるから、働けば働くほど日本の賠償金が安くなるというのである。私は600ルーブルを超えない計算をし、超えた伝票は主婦と娘に(ナ)ナとは、差し上げますの意である。収容所ではソ連軍

に内緒で101ルーブル以上は100ルーブルを取り残りを出し合いマホルカ(粗悪煙草)を買い、無収入者に配分した。出すのを拒みひたすら貯める奴もいた。外出なし商店見たことなし、仲好くなった?ロシア人にピンハネ承知で頼むのである。ダモイ(帰国)の服装検査で日本へ持ち込めないと取られて大笑いだ。職場のロシア人に貸してくれと頼まれ貸したが、踏み倒す奴もいなかったが、利子やお礼の品物を付ける奴もいなかった。ロシア人にクリームとボマードを頼み入浴なし、垢と油の顔と頭に塗り笑われたり、酒も飲めぬのに禁止のウオッカを買わせ取容所で振る舞ったり、飲む奴は薄めてあるとか薄めてないとか言い、八戸市の松村(漁師)は復員後手紙で、酒で酔わない考えたらお前にウオッカを飲まされ強くなっていたと書いてあった。禁を破り戦友をハラハラもさせたようだ。

★クラスノヤルスクへの道

生きて虜囚の辱めを受けるな、家族が村八分になる。陣地を脱出し非戦闘部隊に潜り込み捕虜、再び戦闘地を知らぬ顔で通るは(『今日は12月……』に書いた)黒河よりブラゴエへ、木造貨車に詰め込まれダモイである。西向く貨車から駅毎で進行方向を指しウラジオ、ロシア人は肩をすばめ両手を広げモスクワ。これを何日も繰り返してトンネルの続く地形に入り36迄は数えた。と、前方に大海原が広がり水平線が果てしなく見える。ウラジオだ、大歓声が揚がる。貨車から下を指差すとイルクーツク、大海原を指差すとバイカル。シベリアの真只中に連れてこられると話す、又、西へ西へ幾日も走る。帰れる組、帰れない組の感情が高まる、ロシア人のモスクワを「もう少し」と言うのも出てくる、私は帰れない組だ。真夜中下車、潮の香もない。突然汽笛が鳴る船だ港だ大騒ぎになる、……汽笛は火力発電所からと夜が明けて判る。

★虱

何ヵ月も入浴なし、洗濯なし、下着交換なし虱は凄く繁殖、袖口衿首から這い出てくる。発疹チブスが蔓延し死者多数。汚れた真っ黒なシャツが虱で白くなる、死体から虱が群れて這い出てくるを見ても何とも思わない。地獄とはの文に「皆が罵りあっていて、一人でも同情者がいれば地獄でない」と、私は地獄いたのだ。

★献血

3日の休みが欲しくて名前も顔も知らぬ戦友に400CC献血した、職場でロシア人に橋詰は献血して死にかけていると話したら、オーと叫んで相談して見舞いを頼まれたと馬鈴薯を持ってきた、助かった人は岡山県にいるが、年賀状の付合いで一度も合っていない。今年1月ミニ親支援チャリティコンサートの案内文を送ったが返事なしだ。献血のことは90,12,14日朝日新聞“食べる”に書いた。

★ダモイ

帰国の噂はどこからともなく出てくる、正月は日本だとか、紀元節・天長節など、たどると同じ人間を一回りする。流した奴は自分の噂を信じている。

★欠礼(上官に敬礼をしないこと、欠礼は上官侮辱で営倉…留置場)

点呼の後、准尉がキサマ欠礼だと大声で私を掴み何年兵だと聞く。私の後に兵隊になった者はいない最低の兵籍、震えながら大声で「捕虜初年兵だ、准尉は捕虜何年兵だ」と叫ぶ、そудの怒号で准尉は袋叩きで階級章をもぎ取られ、これが階級章を取る契機になる。

★新聞屋(ソ連の情報将校、日本新聞を運んで来るのでそう呼ぶ)

翌年雪解けと共に食料状態も少しよくなる、諸君が日本に帰ると世界中にソ連が諸君にした事が判る、食料もロシア人より良いと胸を張って言う。死なない程度に食べさせる国だと判る。諸君がマホルカ(粗悪煙草新聞紙で巻き唾液で紙を張り付ける)の為に市民の新聞をロシア人に買わせるので、新聞が買えないと苦情が出ている。マホルカに新聞を使うなど嘆息する。トイレに使っているのを知らないのかと買い占めに力が入る。ロシア女性に時計を持っている者が増えた、理由は判っている調査して判明したら帰さないとも言ふ、ダモイは近いと内心喜ぶ。

★ジャガイモ植え。(馬鈴薯=カルトーチカ)

マリーケドバー(小さいの2つ)ポリショイアジン(大きい1つ)種薯の植付けである、スコップで大穴を掘り植えずに捨てる。午前のノルマ500%だと笑い転げる。悪事露見し叱られる、神妙に叱られているのに、日本の兵隊知っていると云っても何も知らない、ここに出来る馬鈴薯はこんなに大きいと、両手を大きく広げた時、神妙を忘れて爆笑した。その夜捕虜は倉庫番に話し掛け、別の捕虜が種薯をセルマーチ(盗む)ついでに缶詰や塩漬け肉も盗む。捕虜を受入れた家族と食べ物で一層親しくなる。親しくなると仕事も楽しくノルマも上がる、何が辛いからである。捕虜を受け入れた家庭は羨望の眼差しで見られ捕虜も鼻高々だ。

★農場 2

捕虜の一人がリスを捕まえるという、警戒兵も誘い丘の上で水汲馬車を待つ、水汲は娘の仕事である。穴に一人づつ付き高い穴から水を流し込む、水に追われてどこかの穴から出るのを待つ娘も手伝う。針金で籠を空缶で風車を造り大人気で、捕虜の株は跳ね上がる。

★農場 3

機関車修理工場で捕虜は色々な物を造った、スパン・フォーク・錠・指輪・西洋剃刀、剃刀は刃が3/1000ミリになると髭がそれと教えられる。私は砲金(ホウキン)で指輪を造る。ヤスリ・サンドペーパー・仕上げは針の先で磨くと金色に輝く、農場で見せ捕虜の金歯と(アジンナカバ)同じと説明。農夫の一人が指輪を高くかざし(スコルコ)幾らかと鑑が始まる。別の農夫が来て何が欲しいかと聞く、マホルカと答えるや私の帽子を持って走って行き、帽子にマホルカを山盛りにして戻ってくる、鑑は成立し一生懸命鑑っていた人はボカンとし、周囲から大笑いが起こる。煙草は家の周囲で栽培しマホルカは自家製である、その為かロシア人は子供から男女の別なくマホルカを喫う。煙草をくれと言うと吸いかけをくれ、くれと言われれば吸いかけを渡す、男から女へ女から男へ、ロシア人から捕虜へ捕虜からロシア人へ。大人から子供へ流石子供から貰うのは見た事がない。

★ビスモー(手紙)。

労働者のおばさんが小声で呼ぶ、倉庫の人気のない処へ連れていかれ、紙と鉛筆を出し手紙を書いてくれと言う。他のロシア人には知られたくない内容のようだが、字を知らないと言われると、(クツズミドラーク)橋詰は阿呆だと言われる。

★捕虜通信。

抑留後1年ぐらいか、ハラショラポーターから順次葉書が出せるようになる。カタカナで欲しい物があれば書け、何処にいるか・誰といるか・何をしているかは書けない。日本からの小包みが着いても帰れないと判り慄然とする。出せない者が諦め、一番組が小包みを待つ頃、やっとな私にも葉書が渡された。私は生き延びることといつかは帰ることだけを知らせればよいと考え、キョウアメ・アスハレと二行に大

きく書いた。日本側の検閲者、福永（福岡）は「元気である」と書いて安心させろ言ったが、そんな気持ちは到底なれなかった。母は手紙を読んで希望を持ったと。

★数

コンボイ（ソ連兵）の顔で二列、四列、五列とこちらから並ぶのである、隊長福永の特技は今日は何列コンボイと事前に予知し、人員も誤魔化すのが上手だった。氷点下45度の外での点呼は他の隊より早く解散出来た。福永は日本側の監督で戦場を巡回するのが仕事だが、冬は私の前のスチーム管で居眠りの特技を披露して、ロシア人から（ヤボンスキーガマンジェルオーチンハラシヨ）日本の監督は良いと言われては、お前も日本人になれとやり返していた。

★ツビティ（凍傷）

ロシア人は不具者が多い戦争かと聞くと、酒を飲んで外で寝てしまった人だと言う。雑巾がけをして手を良く拭かずに工場へ向かう、指先が痛い工場へ着いて出すと指先が白い。ロシア人に見せると人を集めながら外へ連れ出し、雪の上に手を置かせ交代で汗を出して摩擦して助けてくれた。

★橋詰営倉に入り日本に帰りたくないのゼッケンを付られ働く。

準夜勤で鉄を削っているとエハハンマー組が、別の鉄を削れと言う、ロシア人と捕虜の二人一組で、相棒の捕虜を可愛がるが奴は、鉋棒に辛く当たる性悪で、ロシア人からも嫌われているロシア人だ。私が削らないと引地は楽が出来るが奴はノルマゼロである、引地はスチーム管に腰掛けている、監督の命じた仕事しかないと言わない人が集まり取り囲む、ロシア人がノルマゼロだから大変だ。モロトフ（ハンマー）を振り上げ脅迫し「監督は俺だ」と迫る。ブリョウシュウチベヤラボーチ（嘘付けお前は労働者だ）と反論したら、奴はヨッポイマーチ（最悪の侮辱語）で殴りかかる。鉄の丸棒でオモン一本、額と鼻先から血が出る。ツキー一本で奴は逃げロシア人から拍手が起こり握手もするし肩まで叩いてくれる。奴は警戒兵を連れてきて御用になる。私はヨッポイマーチだけを強調し、ロシア人も証言してくれ営倉3日、実質1日で許してもらう。

★発電所ボイラー故障工場内凍りつく。

ボイラーの一基より煙りが出ない、工場の水道も凍って出ない。暖房用のスチーム管も冷たく誰も腰掛けない。鋳金鋳冶を遠巻にして暖を取り仕事にならない。ボイラーの特別鉄を旋盤で加工することになる、テーバー付き鉄で寸法通りに出来ずオシャカ続出する。マローシェはすでにリタイヤ、オーリャも工夫して正しいテーバーを出そうと奮闘している、肩に金モールを付け胸に勲章を多くさんぶら下げた偉い人が旋盤を取り巻き多勢が見ている、戦場の女監督は小柄でオロオロしている一寸した見物だ、動いている機械はここだけである、オーリャは半泣で寒いのに汗まで出している。私はオシャカと図面の誤差を調べオーリャにアドバイスすると女監督が私を指名した、声を出しているのは三人だけで他は沈黙で異様な雰囲気だ。旋盤のセンターを思い切り手前に調整する。粗削りで寸法を計り削りながら正しい寸法にセンターを異動調整する。オシャカなしで一本完成。後は阿呆でも図面通りに削れるのでオーリャとマローシェに任せる、私はどよめきの歓声を受け、勲章達が一人づつ素手で油の手に握手してくれた。この出来事が後で私を助けてくれることになる。

★使役

勤務体系で私は昼間収容所にいる方が多い、当然昼食に帰る者の食事準備をする。公平に配分するのが難しい、飢餓食事の配分で血を出す争いに発展する。いただきますの言葉でなく、納得の言葉で食事が始まる、一人でも納得しないと再配分をする。病院使役から帰ったグループは青い顔をして食べない、聞くと腸や胃など内臓物や目玉を穴を掘り埋める仕事をさせられたと、大変な国に来たものだ。

★使役2

工場と捕虜の食料倉庫の番に出された、老人が銃と犬で番をしているがよく泥棒に入られるので捕虜を付けたら泥棒が減ったと云う。倉庫番と泥棒がグルぐらいすぐ判るのに。犬は主人の言うことをよくきく、収容所長は戦傷でビッコだ杖をつき歩く陸軍中佐、向うから来るので犬にウーと言うと犬は腹ばいになり唸る、老人は止めると手で合図する、更にウーとけしかける、中佐が前を通る頃犬は腹を地面にこすりウー。やりすごし犬の尻を叩く犬は吠えて飛び付く、よい方の足で犬を蹴ろうとし悪い足が残り転倒する。駆けていき犬を離し中佐を起こし泥を払ってやる、中佐は紳士だスバシーボー（有り難う）と言う。老人と肩を叩いて大笑いだ。ロシアで60才ぐらいより上の人は、帝政時代が良かったと言っていた、レーニンが馬鹿でスターリンは大馬鹿だと、少し知り合い聞き出すと話してくれ、決して他人に言うなと念押しされた。言った為に知らない間にいなくなるとも言っていた。

★万年筆

軍隊に入る時ネーム入り万年筆をもらい、満洲を逃けている時食料と交換しようとしたが中国人は名前が彫ってあるから駄目と言われた。ソ連将校の当番になった戦友が貸せと、貸してやつたら将校が欲しいと言いつたのだとどうすると言ってきた。私が持ちソ連兵に見付かれれば略奪されるからと、1個3.5キロの黒パンと交換して8人で食べてしまう。なにもかも無いのがソ連であった。

★橋詰思想調査委員会にかけられる。

準夜勤の仕事を適当に切り上げ工場探険に行く、帰ると旋盤が壊れている。生産力の低下が狙いか仕事が嫌で聞かれると教えられ、不注意の一点張りです。戦場のロシア人が次々呼ばれ、外で待つ私を励まして帰る人もいる、殴った奴も来て観念したがおかまいなしであった。通訳は発電所の功績が信用されたと教えてくれたが、戦場のロシア人が私を庇ってくれたとお礼を言ったら、自分の事の様に喜んでくれた。

★ある程度思うがままにやってきた。

1000人近い兵といふから、一緒に帰れると信じていた。文では、ロシア人と書いたが、ロスケで通した。正しくはロスキーと発音するのだが、ロシア人はロスケニエトロスキーと正そうとしたが、その都度ロスケと発音して通した。

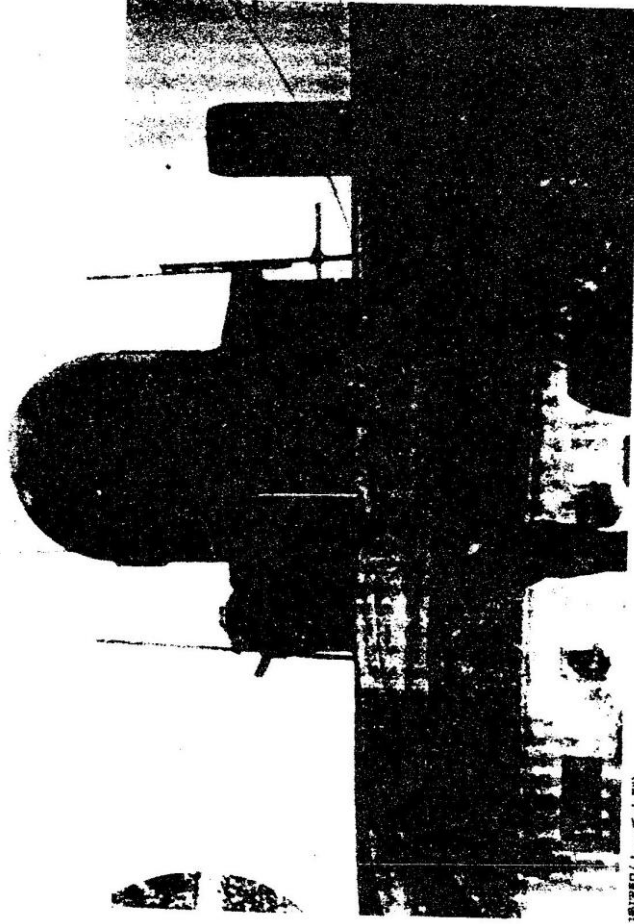
戦友から何度「そんな事をしていると帰れないぞ」とも言われた。個人としてのロシア人の心の大きさに感謝している。

★恐怖、ソ連体制

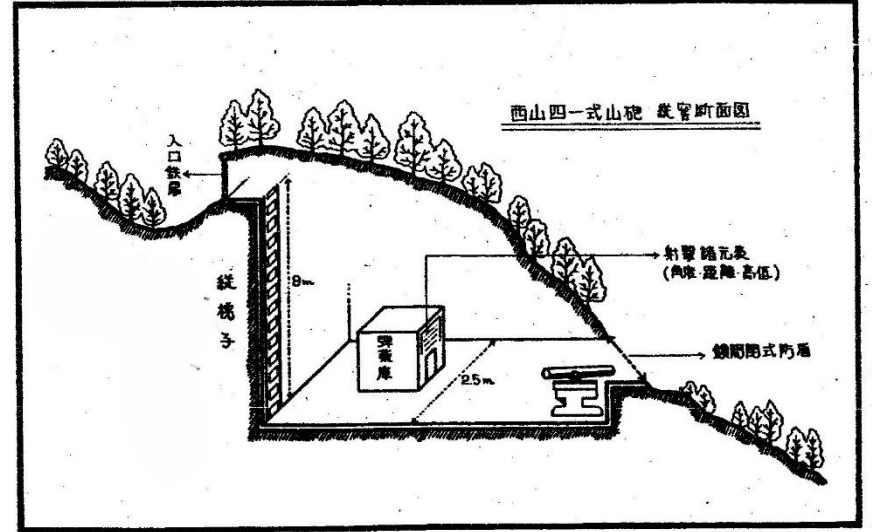
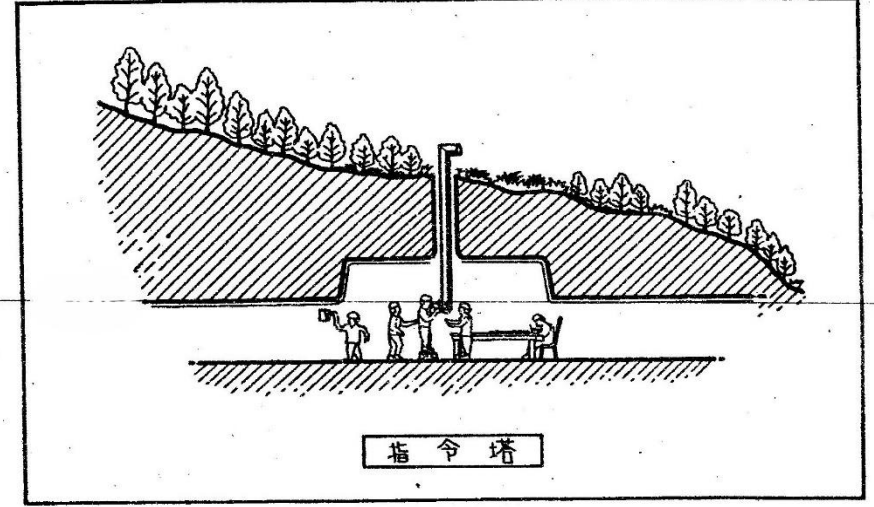
ダモイで並んだ。服装検査も済みダモイ間違いないと信じた。通訳が将校は先に出て貨車に乗る数を決めると伝え、私達は拍手で送り出した。工場労働者が泣いて、手を振り送ってくれた。仕事はと思うほど大勢の人が送ってくれた。駅に着くと将校の姿はなく出発した。ナオトカで捕虜から転向した共産党員のいやがらせもあり、乗船も遅らされた。将校が帰れたのはそれから2年後であった。

攻めは要塞要

北部主作戦を思わせる頃



埋蔵駅(トーチカ型)





今こそ「戦争」語り継ごう

戦争体験を引き継ぎ、平和について考えようと、緑区鳴海町本町の緑社会教育センターが九日、「戦争体験を語り継ぐ集い」を同センターで開いた。今年で四回目。

午前十時ごろから日本福祉大学付属高校講師の小出裕さん(金)が「十五年戦争の概略」と題して講演。続いて終戦時、九州の第五十七軍百五十四連隊で陸軍伍長をしていた花房達夫さん(金)「緑区」が自分で作った年表を用いて戦争突入への歴史的経過を説明した。次に豊明市の橋詰四郎さん(金)がシベリア抑留の体験談などを話した。

平和ニッポン
芋がゆうまい

緑社教センター

1992.8.10 <中日>

「戦争体験を語り継ぐ集い」で戦時食の芋がゆうまいとんを体験する人たち。緑区鳴海町本町の緑社会教育センターで

悲惨な戦時体験熱い

実行委員会への参加呼び掛け

今年も「戦争体験を語り継ぐ集い」

を開きます

私達日本人が何らかの形で係わった「戦争」といえば、ついこの前の「湾岸戦争」であつたり、古くは「ヴェトナム戦争」などがありますが、47年前の「戦争」のことを、「知っている人」が少なくなってきました。

でも、「湾岸戦争」をテレビの画面で「見る」だけだった人達でも、日本人とアメリカ人とでは少し違った反応があつたそうです。

テレビ画面で見せられた「戦争」は、最新テクノロジーを駆使した、人間臭が極度に取り除かれた、一種の「命中精度を競う殺人攻撃ゲーム」でした。にもかかわらず、日本人の中には「殺される」側の立場でテレビを見た人も多かつたといわれています。実際に戦場で戦った体験は勿論、いわゆる「銃後」での戦災被害の恐怖の体験、悲惨な体験等々が生きていたからに違いありません。

緑社会教育センターでは、この「戦争体験」を大切に、継承していくために、毎年夏の暑い時期に「戦争体験を語り継ぐ集い」を開催してきました。

今年も 8月9日(日) に開催を予定しています。

そして、緑社会教育センターをご利用の方々を中心にして「実行委員会」方式で、中身作りを進めていきたいと考えています。

つきましては、初回の実行委員会を次のとおり開催します。志をお持ちの方、どなたでも大歓迎です。実行委員会に参加ください。

1、日 時 6月26日(金) 午後 6時30分～

2、場 所 緑社会教育センター「第1集会室」

あなたの 知恵 と 実行力 を 結集 して、

今年は、「実行委員会」で 内容豊富 な
「語り継ぐ集い」にしてください。

当日の案内ちらし

「戦争体験を語り継ぐ集い」へのご案内

今年も、暑い夏がやってきました。8月15日の「終戦記念日」に合わせて、「暑い夏の体験」に至る「戦争体験」を語り伝える「集い」を開催します。

戦争を知っている人は、大いに語って下さい。戦争を知らない人は、少しでも日本が直接戦った、アノ「戦争」の本当の姿を知っていただきたいと思います。

8月9日(日) 午前10時～ 午後3時

緑社会教育センター「第2、3集会室」

◆ビデオ「はだしのゲン」(アニメ) ◆当時を偲ぶ、思い出の「品」等の展示

◆当時の体験を語り継ぐ「懇談会」等々

(お昼には、当時を偲ぶ「イモガユ」の試食会も予定しています)

多数の方々の参加をお待ちしています。どうぞ、お問い合わせの上、お出かけください

※ 主催(お問合先)は、緑社会教育センター

☎ 621-9121

八月九日(日) 午前10時
『緑社会教育センター』へ出頭せよ!

「赤紙」は実際は、もっとさり気ない調子で、次の様なものでした

臨時召集令状

愛知県名古屋市長緑区鳴海町字本町五拾四番地

第一補充九兵衛陸軍歩兵 緑 太郎

右臨時召集ヲ令セラル依テ左記日時到着地ニ参着シ
此ノ令状ヲ以テ当該召集事務所ニ届出ツベシ

到着日時	平成四年八月九日午前拾時
到着地	名古屋市緑社会教育センター
召集部隊	戦争体験を語り継ぐ集い実行委員会

緑聯隊指令部

印

あなたのとほりに、一枚の「赤紙」が舞い込みました